

安心して暮らせるまちづくりのために 栄・防災ボラネット通信

発行：横浜栄・防災ボランティアネットワーク

28号
2019-3

平成30年度 災害ボランティアセンター開設・運営訓練報告

日時：31年2月12日（火）9時～12時

場所：栄図書館、ピアハッピー栄（栄区福祉保健活動拠点）

参加者：25名（横浜栄・防災ボランティアネットワーク、栄区役所、栄図書館、栄区社会福祉協議会）

栄区社協からは初めて訓練に参加する職員も多く、図書館へ何を持って行けばいいのか、本当に必要な物は揃っているのかなど、開始早々に不安な声が聞こえてきました。

一方、防災ボランティアネットワークの参加者には、実際に栄区社協から協力要請を受けたことを想定し、栄図書館まで参集してもらいました。歩いていらした方の中には「大体想定通りの時間で来られた」という方もいれば、「バスなど公共交通機関が利用できなかった場合、どうしようかと改めて考えた」などの感想もいただきました。

図書館へ参集後、各ポジションの準備に取り掛かりましたが、3人集まれば3通りの気づきがあり、準備開始からすべてのポジションの準備が整うまでに30分程かかりました。

参加者全体でそれぞれのポジションの確認を行いました。が、“想定通りに準備ができていないか”ではなく、“限られた環境でベストな状態に準備ができていないか”というまさに臨機応変さを踏まえた意見出しが行えました。

後半は栄図書館から本郷台駅まで現地調査訓練を行いました。普段何気なく歩いている道でも「発災時に交通量が増えることが予想されるのではないか」や「どの程度、建物のガラスなどが飛散するのか」など想定しながら歩くことで、いつもとは違った栄区の景色が見えてきました。

今後、地域の方と一緒に“街を知る”という観点で現地調査訓練を行えば、参加しやすい防災の時間が築けるのではないのでしょうか。

災害ボランティアセンターを設置・運営するためには、地道な訓練を重ねることが必要です。社協職員として、改めて多くの人を巻き込んで、みんなで進める災害への備えの大切さを感じました。今後は、栄図書館での訓練だけでなく、各ポジションの細かい訓練など、継続的に実施していきたいと思います。

（栄区社協 山口 記）

【訓練の流れ】

前半：設置訓練

⇒要請を受けてから、図書館に災害ボランティアセンターを立ち上げる。

後半：現地調査訓練

⇒栄図書館から本郷台駅まで発災時を想定して徒歩で移動する。



「Bブロック会議報告」

年に3回開かれる、港南区、磯子区、金沢区、戸塚区、栄区の5区のボランティアネットワークによる横浜市Bブロックの会議が、2月19日(火)午後6時30分から栄区の主催によって、第15回会議として開かれました。参加者：32名（港南区：5名、磯子区：5名、金沢区：3名、戸塚区：1名、栄区：18名）

1. Bブロック会議で継続して検討していく必要のあるテーマ

これまで14回開かれた会議では、テーマを各区で設定し、ブロック全体の活動に有用な事項を広めていく方式でしたが、これらを今後継続して検討していく必要のあるテーマに絞り込むことを意識して検討することとし、参加者全員がA～Eの5グループに分かれて討議を行い、その討議結果を発表する形で行いました。

<各グループの発表の概要>

- (1). **A グループ**：●会員の高齢化に伴う、担い手の拡充にはボラセンなどの周知が必要。●会員のスキルアップにはマニュアルの整備・改訂・経験の固定化を図り、シミュレーションによるスキルアップが必要。
●訓練の仕方も含めて、社協と災ボラでの連携が重要。●社協職員のための開設訓練も行っている。
- (2). **B グループ**：<ボランティアセンターの運営力> ●若い人をどのように巻き込むか。●ボランティアの足、車輛などの確保と駐車スペース。●区によって状況が違う部分も話し合っていきたい。<相互の協力> ●ブロック内で協力し、互いに参考にしながら会議を続けられればと思う。
- (3). **C グループ**：●災害発生時の互いの情報入手には、特に区社協間での連携が重要。●以前実施した無線での連携も平常的に行えるように訓練が必要。
- (4). **D グループ**：<ボランティアセンターの運営力> ●防災時をしっかりと想定することが重要で、これには事前の準備が必要。●資機材のことなども、具体的な想定が必要。●拠点との連携についてさらに検討したい。<Bブロック全体として取り組むこと> ●被災状況の想定と共有。●協力し合える事項の確認。●区によって異なる状況に応じたボランティアの受け入れを検討。
- (5). **E グループ**：<各区の連携について> ●ブロック内で被害を想定し、想定した被害状況について共有し、どのように協力しあえるか検討したい。●災ボラ以外のボランティア団体との連携も必要。●担い手の確保について、若い力、ITが得意な方の協力をどのように得ていくか。訓練やイベントなどを利用して、顔の見える関係づくり。



2. 災害ボランティアセンターの運営力について

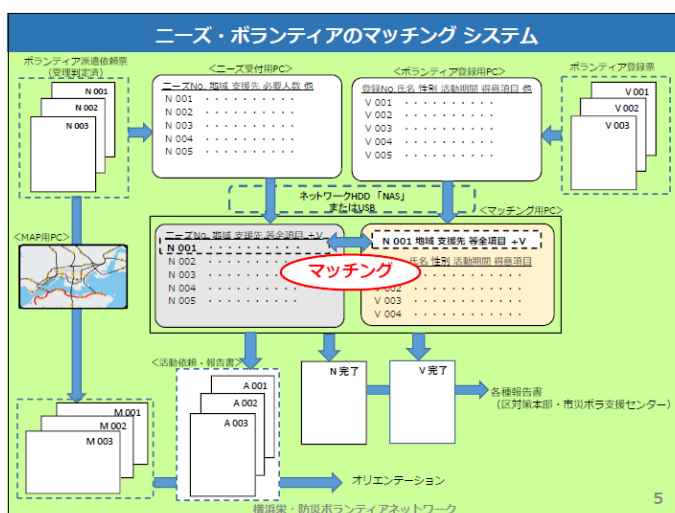
災害発生時、被害に応じて寄せられる多数の支援要請（ニーズ）、対応して支援に駆け付けてくれる災害ボランティア人数、この支援ニーズとボランティアを短時間で適切にマッチさせて被災現場に送り出せるか、などが災害ボランティアセンターの主な能力になります。

栄区の被災に対応した支援ニーズ件数を、栄区防災計画の元禄型関東地震で想定されている避難者数を基に算定し、必要な支援ボランティア人数を設定。

そのマッチングを短時間で行うための、PCによるプログラム開発事例を、栄区の活動の一端として紹介しました。

現状は全システム（右図）の完成には至っていませんが、災害ボランティア100～200人/日への対応を当初の目標として推進しています。

（宇都宮、山口 記）



ご存知ですか？！

【栄区災害対策本部・ボランティア班って？】

横浜地域において震度5強以上の地震が発生したときなどには、栄区役所に区災害対策本部が設置されます。対策本部には「庶務班」「情報班」など13の班が組織され、そのうちの1つが「ボランティア班」です。こども家庭支援課長を班長として、こども家庭支援課の職員6～7名で構成されます。

ボランティア班の主な業務は、災害ボランティアセンターを設置するかどうかの判断、区社会福祉協議会への設置要請、設置場所の提供や、設置・運営に関わる支援全般です。災害ボランティアセンターは、区の要請に基づき、区社協がボラネットと連携して立ち上げることであります。

「いざ」という時の準備として、日頃からの顔の見える関係づくりが何より大切です。これからも、ボラネットの運営委員会などに参加させていただき、連携を深めていきたいと考えています。

(栄区役所こども家庭支援課 高橋記)



栄区役所こども家庭支援課
(ボランティア班)

【福祉避難所とは？】

福祉避難所は、大地震によって自宅に住めなくなり地域防災拠点に避難された高齢者、障害児者、妊婦、乳幼児などのうち、地域防災拠点での生活することが難しく、介護などの支援の必要性が高いと判断された方々が避難生活を送る場所です。

地域防災拠点で対象となるかの判断を区役所などの専門職（保健師など）が行い、福祉避難所の開設状況などを踏まえて、どこの福祉避難所へ行くか区役所が一人ひとり決定します。

ご自身の判断で、福祉避難所へ行くことはできません。

地域防災拠点から福祉避難所への移動は、原則家族が行うことになっており、対象者のケアなどのため家族も一緒に福祉避難所で生活することもあります。

高齢者施設、障害者施設、地域ケアプラザなど24か所が栄区役所と福祉避難所の開設についての協定を結んでいます。

これまでは、「特別避難場所」という名称でしたが、平成30年4月に「福祉避難場所」に名称変更されました。

福祉避難所についてのお問い合わせは、福祉保健センターの高齢・障害支援課(☎894-8539)が窓口となります。

(笠間地域ケアプラザ澁谷・豊田地域ケアプラザ大坪 記)

一栄区内の福祉避難所一覧一
笠間地域ケアプラザ
桂台地域ケアプラザ
小菅ケ谷地域ケアプラザ
豊田地域ケアプラザ
中野地域ケアプラザ
野七里地域ケアプラザ
上郷苑
クロスハート栄・横浜
クロスハート野七里・栄
田谷の里
陽のあたる丘MISONO
ライフコートさかえ
ケアポート・田谷
湘南グリーン介護老人保健施設上郷
リハビリポート横浜
翠風荘
イリーゼ横浜港南台
地域活動ホーム 径
さかえ福祉活動ホーム
栄区生活支援センター
SELP・杜
ソイル栄
朋
リエゾン笠間

「TEAM 防災ジャパン オフラインミーティング in 湘南」

日時：2月2日（土）14：00～18：00 場所：茅ヶ崎市コミュニティホール

主催：内閣府（防災担当） 共催：茅ヶ崎市（参加者：防災関係者約100名）

横浜栄・防災ボランティアネットワークの歩みを、“地域防災力をはかるために各分野との連携”という視点で宇都宮さんと報告いたしました。

(藤田 記)

<活動報告>

第2回災害対策研修会 「クロストークⅢ」

日時：2018年12月8日（土）13:30～16:00 場所：栄区役所新館4階8・9号室

参加者数（44名）ボラネット（19）拠点（12）自治会・その他（6）区役所（5）社協（2）

「災害時の連携にどう備えるか」をテーマに行われました。

最初に、「地域防災拠点について」（区役所・伊藤氏）、「災害ボランティアセンターについて」（社協・山口氏）に、それぞれ実例をあげ分かり易い説明を頂き、その説明を受けて7グループでクロストークを行いました。どのグループも活発な意見交換がなされました。拠点訓練では防災訓練ではなく、より質を高めた開設訓練を目指す声が多く聞かれました。ボランティアセンターについては、まだまだ区民の認識度が低いようで、より広く広報活動が望まれます。

今後も、各関係者間でより顔が見える関係性構築のためにも、このような合同での研修が必要であることを強く感じました。
(柳沢記)

笠間Bブロックふれあいサロン防災講座「必ず来る大地震簡易食の作り方と試食会」

日時：2019年2月15日（金）10:00～12:00 場所：かさまゆうわ館

参加者：約30名 ボラネット協力者：大森、鈴木、山崎、村上、古荘

なぞなぞあり、歌ありの楽しい雰囲気の中、メインテーマである防災講座「大地震に備える」では、非常用炊き出し袋をつかってご飯とホットケーキを作りました。出来上がるまでの間に、災ボラの鈴木氏による防災紙芝居が披露され、お水とトイレトペーパーの備蓄だけでもすぐに始めるようにとのお話でした。話を聞いただけではだめ、すぐに買いに行くようにと力説されました。参加された皆さんは、上手に炊き上がったご飯とサロンの千葉会長手作りの梅干しと共に美味しくいただきました。
(村上記)



主催者挨拶



防災紙芝居



非常炊き出し袋体験



試食タイム

<お知らせ>

横浜栄・防災ボランティアネットワーク 総会と講演会

4月20日(土) 栄区役所 新館4階 8・9号室

<総会> 13:30～14:20 (受付 13:00～)

<第2部> 14:30～16:30

平成31年度第1回防災研修会

第2部は関心のある方どなたでも参加できます。多くの方をお誘いして、災ボラの活動を広めましょう。

「栄区の強みと弱み」ー私たちはこれからどう備えるかー

1. 報告 2018年の全国の被災状況と栄区の特徴
2. 基調講演 「災」の年2018年、全国の被災地から学ぶこと
講師：菅 磨志穂氏（関西大学社会安全学部准教授）
3. パネルディスカッション



ホームページをご覧ください！

「**栄防災ボラネット**」で検索してください。

横浜栄・防災ボランティアネットワークへの連絡は
栄区社協：TEL 045-894-8521
FAX 045-892-8974